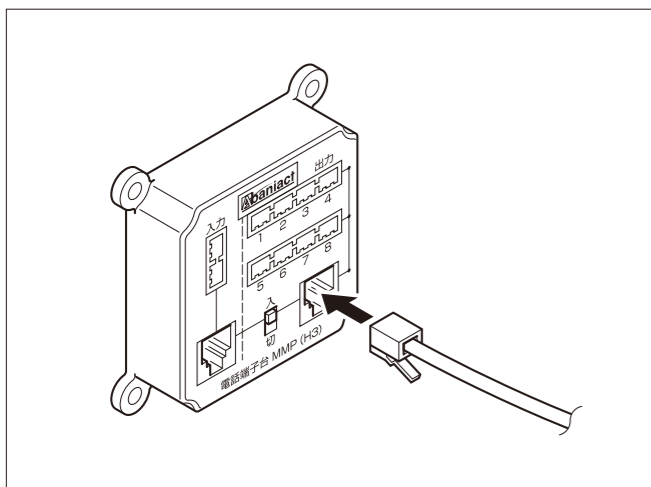


## 電話利用に関するご注意

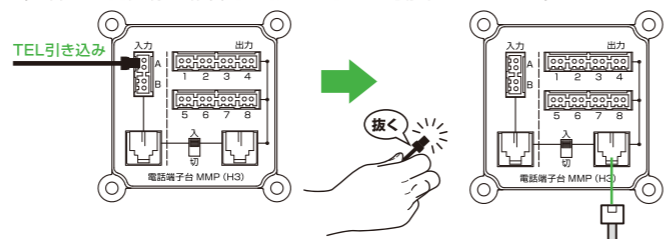
### 電話端子台への接続方法

光 (IP) 電話アダプタを電話端子台に接続することで、各部屋で電話がつながります。

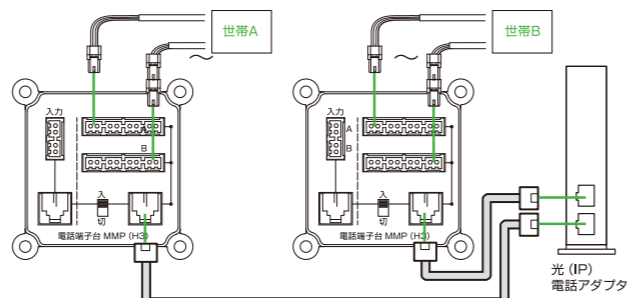
接続にあたっては、電話アダプタ付属のモジュラーケーブルを利用して、下図のように、電話端子台の右下のモジュラージャックに接続してください。



光電話等をご利用の場合は、電話端子台の「入力」ポートに接続されている「引き込み線」を外してください。  
(一部、屋内配線に雑音等の影響を与える可能性があります)

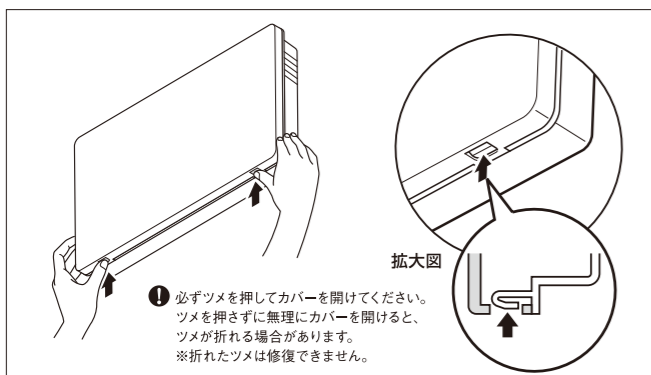


2世帯などで、電話番号を2番号利用する場合は、電話端子台を増設し、回線(番号)ごとに配線系統を分けてください。  
※電話端子台の追加は、本情報盤を施工された工務店、電気工事店様等を通じてご購入ください。

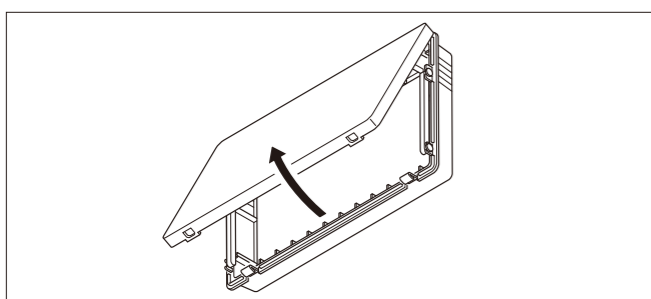


## 情報盤の開閉について

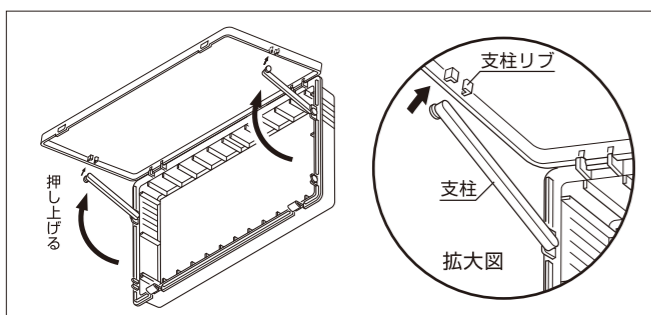
① 本体下面の両サイドにあるツメを押し、カバーの引っ掛けをはずします。



② カバーを上を持ち上げて開けます。

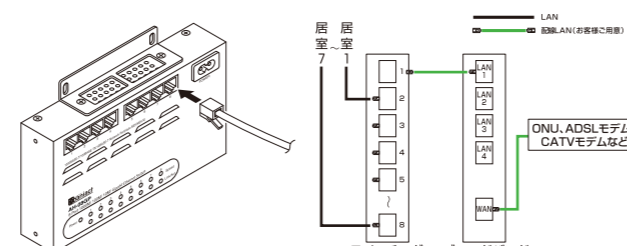


③ BOXカバーは開いた状態で(約100度)保持できるようベース両側サイドに支柱があります。この支柱を下から上に押し上げ、カバー裏面の支柱リブに止めて保持してください。



## ネット利用に関するご注意

HUB設置タイプの場合の機器接続方法  
ブロードバンドルータとスイッチングHUBは下図を参考に接続してください。



### ルータの設置について

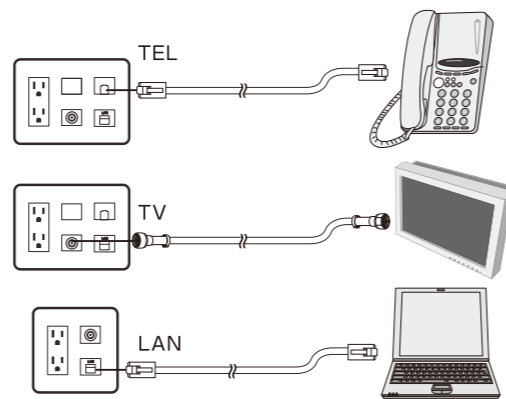
本情報盤にはルータが含まれておりませんので、必要に応じて別途ご用意ください。

無線LANルータを情報盤に収容した場合、電波が正しく届かない可能性があります。

その場合、無線機器は居室内に設置されることをおすすめします。

## 各機器の接続

各部屋の情報コンセントには、電話機、パソコン、TVなどを接続します。



# 情報盤 取扱マニュアル

## 安全上のご注意

- 電源ケーブルの接続は、施工業者様にご依頼ください。
- 情報盤内部に燃えやすいものなどの異物を入れないでください。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因となることがあります。
- 電源コンセントに機器を接続する場合は、必ず機器の電源をOFFにしてください。
- 電源を入れたまま機器を接続すると、感電の原因となることがあります。
- 落雷のおそれがあるときは、電源コンセントから各機器電源コードをぬいてください。雷によって、火災、感電の原因となることがあります。
- 万一、情報盤から煙、異臭が出るなど異常状態のときは、電源コンセントに接続されている電源コードを抜いて、施工業者様に修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。

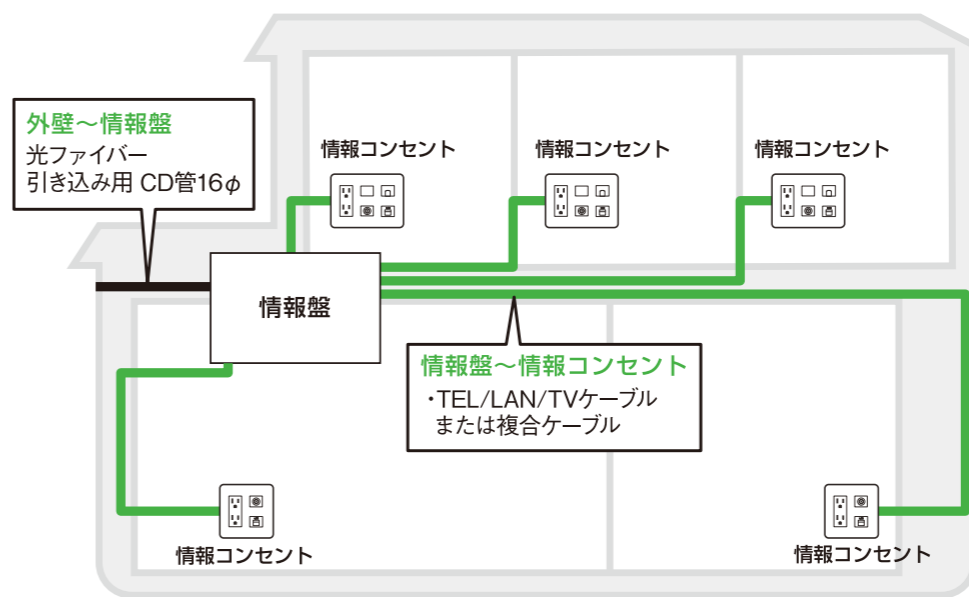
## ご利用上のご注意

- 各種サービスのご利用には別途契約、及び利用料が発生します。
- 情報盤内部機器以外のネットワーク機器は、本システムには含まれません。
- 情報コンセント以降の端末機器は、本システムには含まれません。
- 本システムのネットワーク設定等はお客様で行ってください。
- 記載の各仕様は、実際とは異なる場合があります。

## 通信業者様へのお願い

- 施工前に必ずこの説明書をお読みください。
- この説明書は、必ずお客様にお渡しください。

## マルチメディア情報配線システムについて



インターネット接続機器を情報盤につなぐことで、各部屋の情報コンセントでネット利用ができます。

**特長1**  
FTTH、CATV、ADSLなど全てのブロードバンドサービス、通信業者にも対応しています。

**特長2**  
光電話 (IP電話)、テレビ放送サービスを合わせたトリプルプレイにも対応しています。

**特長3**  
各部屋から、パソコン、ゲーム機、テレビ、ブルーレイレコーダなどをネット接続できます。

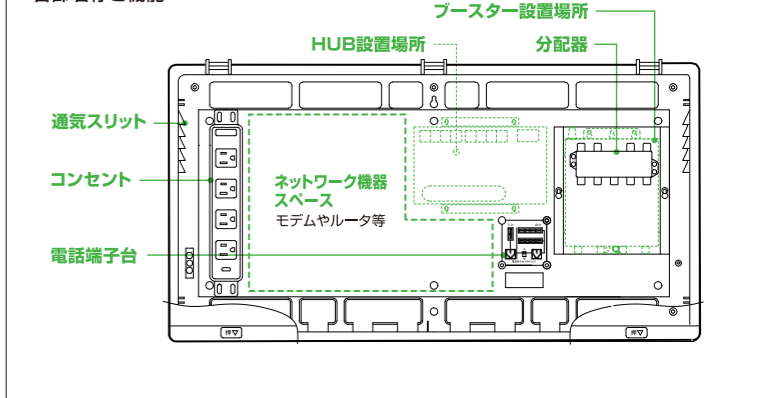
**特長4**  
接続は有線LANですので、確実につながり、セキュリティ面も安心してお使いいただけます。

## 情報盤とは

ブロードバンドに対応した1000BASE-Tのインフラシステムを構築するための弱電集中BOXです。  
電話回線を分配、切替する電話端子台と宅内LANを構築するスイッチングハブ、及びTV系の機器 (ブースターや分配器) を収容可能な住宅の制御盤です。  
スタンダードタイプとディープタイプがあります。

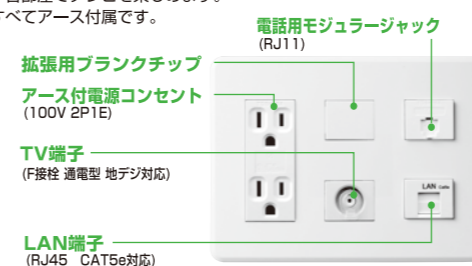


## 各部名称と機能



## 情報コンセントとは

- LAN用コンセントを持ち、各部屋からのインターネット接続ができます。
- 電話、FAXが各部屋で使えます。
- 放送方式を問わず、各部屋でテレビを楽しめます。
- 電源コンセントはすべてアース付属です。
- 拡張機能付です。



## 複合ケーブルとは

- TV・LAN・TELを一束にしたケーブルで、各情報コンセントまで配線されます。
- 専用工場加工しているため、高品質です。

LAN用 (CAT5e 両端RJ45加工)

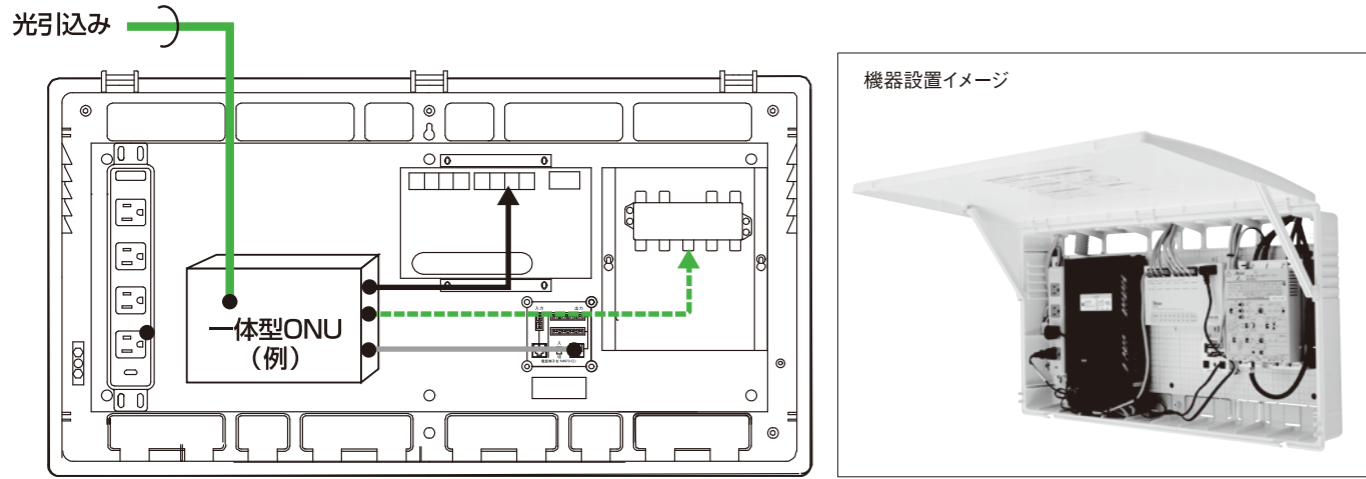
TEL用 (CAT5e 端末加工無し)

TV用 (同軸 S5CFB 両側F接栓)

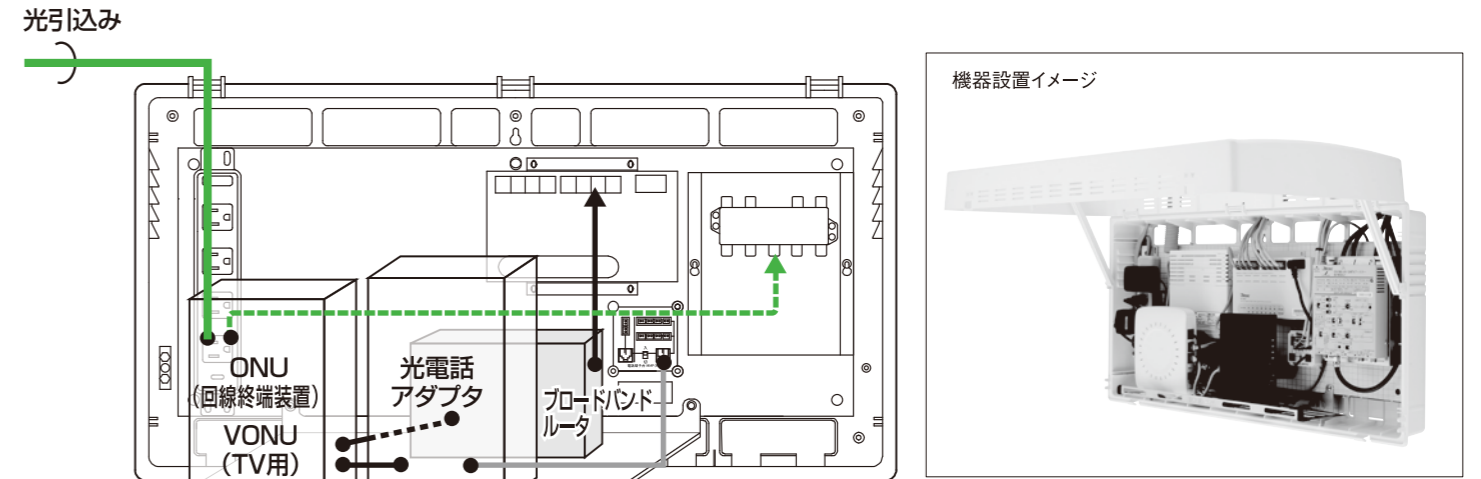
# インターネット接続機器（モデム・ルータなど）の設置場所について ※例は光ファイバーの場合

情報盤へ光ファイバーを引込み、ONU（回線終端装置）を設置します。ONUからブロードバンドルータ、光電話アダプタなど、各種機器間を所定のケーブルにより接続します。最終的に、ブロードバンドルータとHUBを、光電話アダプタと電話端子台を接続して完了です。

**スタンダードタイプ** 各種機器を、情報盤内フリースペース（木板部分）に固定設置させる方式です。



**ディープタイプ** 各種機器を、情報盤内のトレイ上に自立させる形で盤内に收容する方式です。



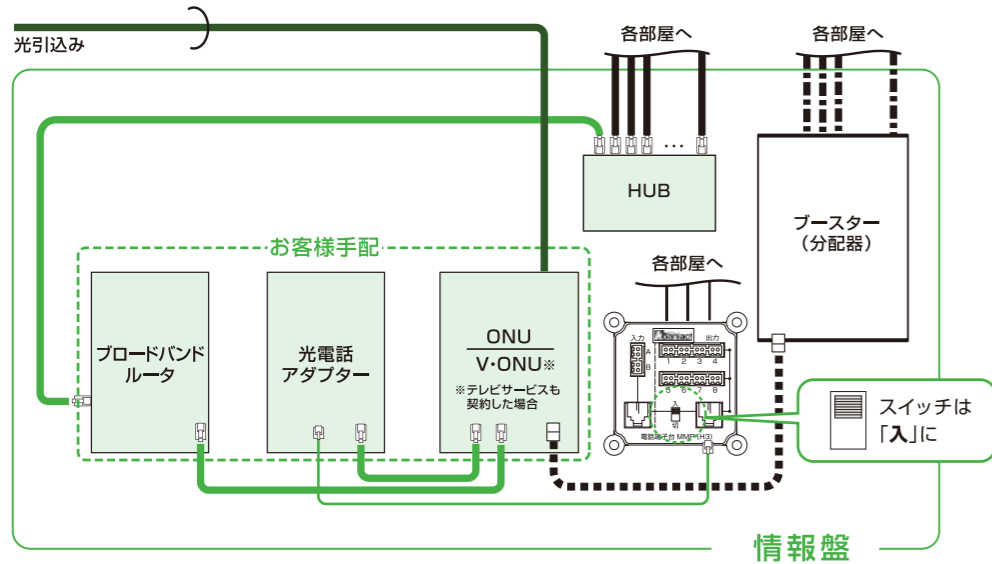
※スタンダードタイプの場合、契約キャリア、内容によっては機器が納まりきらないケースがあります。



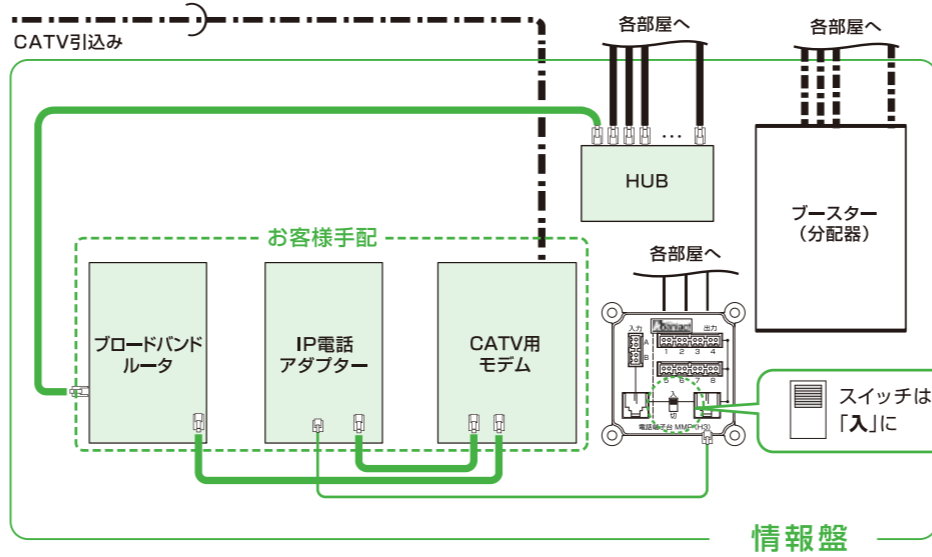
## 接続手順 ※一例です。詳しくは、ご契約の通信業者様もしくは機器付属の取扱説明書を参考に接続してください。

①ご契約の通信業者様にて、情報盤内に各回線を引き込み、モデム・ONUなどで終端します。②各通信機器を所定のケーブルで接続します。

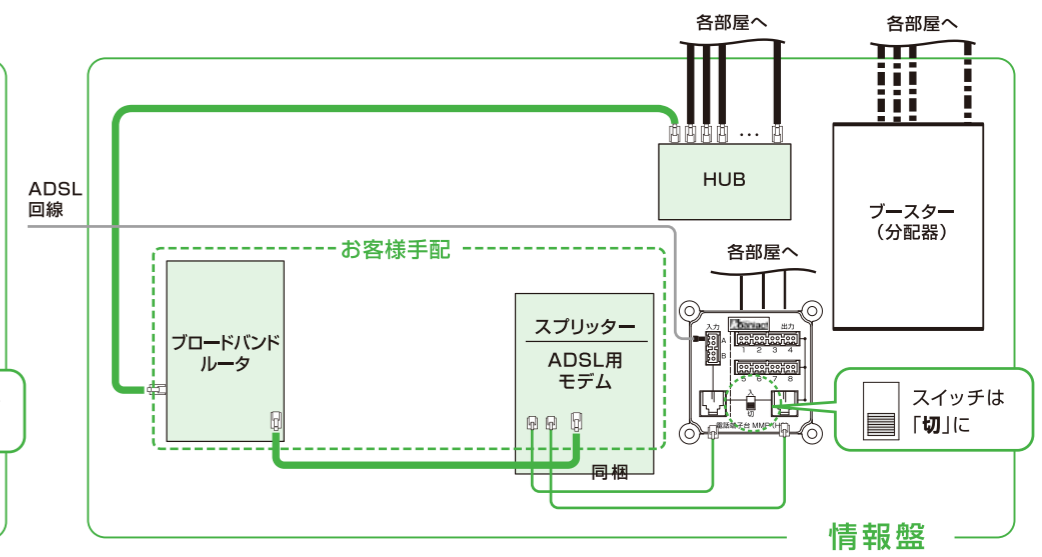
### 光ファイバーの場合



### CATVの場合



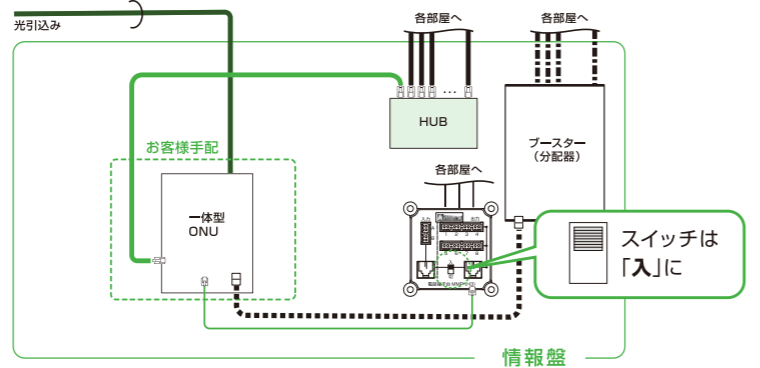
### ADSLの場合



### 一体型ONUの場合

ONUにはルータや光電話アダプタ一体型のものもあります。機器に付属の取扱説明書通りに接続してください。

右図は一例です。



### スモールタイプの場合

スモールボックスの場合は、情報機器を棚などのボックス外に設置し、接続します。

右図は一例です。ボックス内に収めきれない場合はこの限りではありません。

